

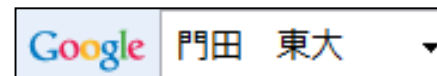
Bio-Linux 8のovaを用いた インストール: Windows版

東京大学・大学院農学生命科学研究科

門田 幸二

kadota@bi.a.u-tokyo.ac.jp

<http://www.iu.a.u-tokyo.ac.jp/~kadota/>



はじめに

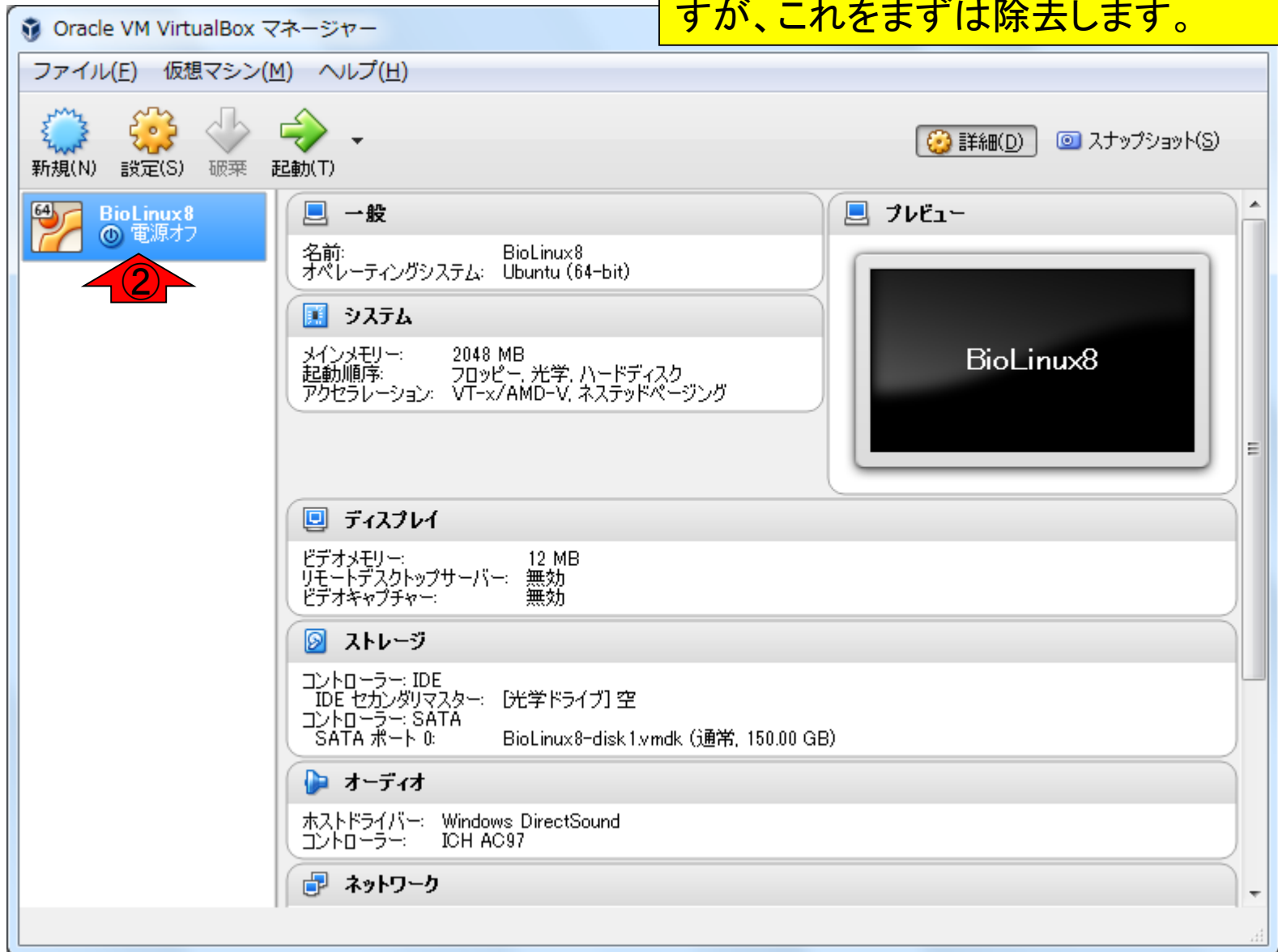
①7/22の「Bio-Linux8のインストール状況確認」をクリアした状態の.ovaという形式のイメージファイルを導入するやり方を示します。

- 前提条件: VirtualBoxおよびExtension Packを導入済み
- Bio-Linux 8のインストールは2つのやり方がある

- ova形式を利用: HDDやメモリ容量など予め設定されたものをインポートして利用するやり方。導入は簡単ですぐに利用開始できるというメリットがあるものの、大きなデータを取扱う場合に容量不足になるなど、本格的なデータ解析時には不具合が生じる場合が多い。
- iso形式を利用: 自分でBio-Linux 8(ゲストOS)の最大利用HDD容量などを設定しながらインストールしていくやり方。手順は多いが、利用中に「空き容量が足りない」などのエラーに遭遇したときに、何が問題かを把握しやすいのではないだろうか。

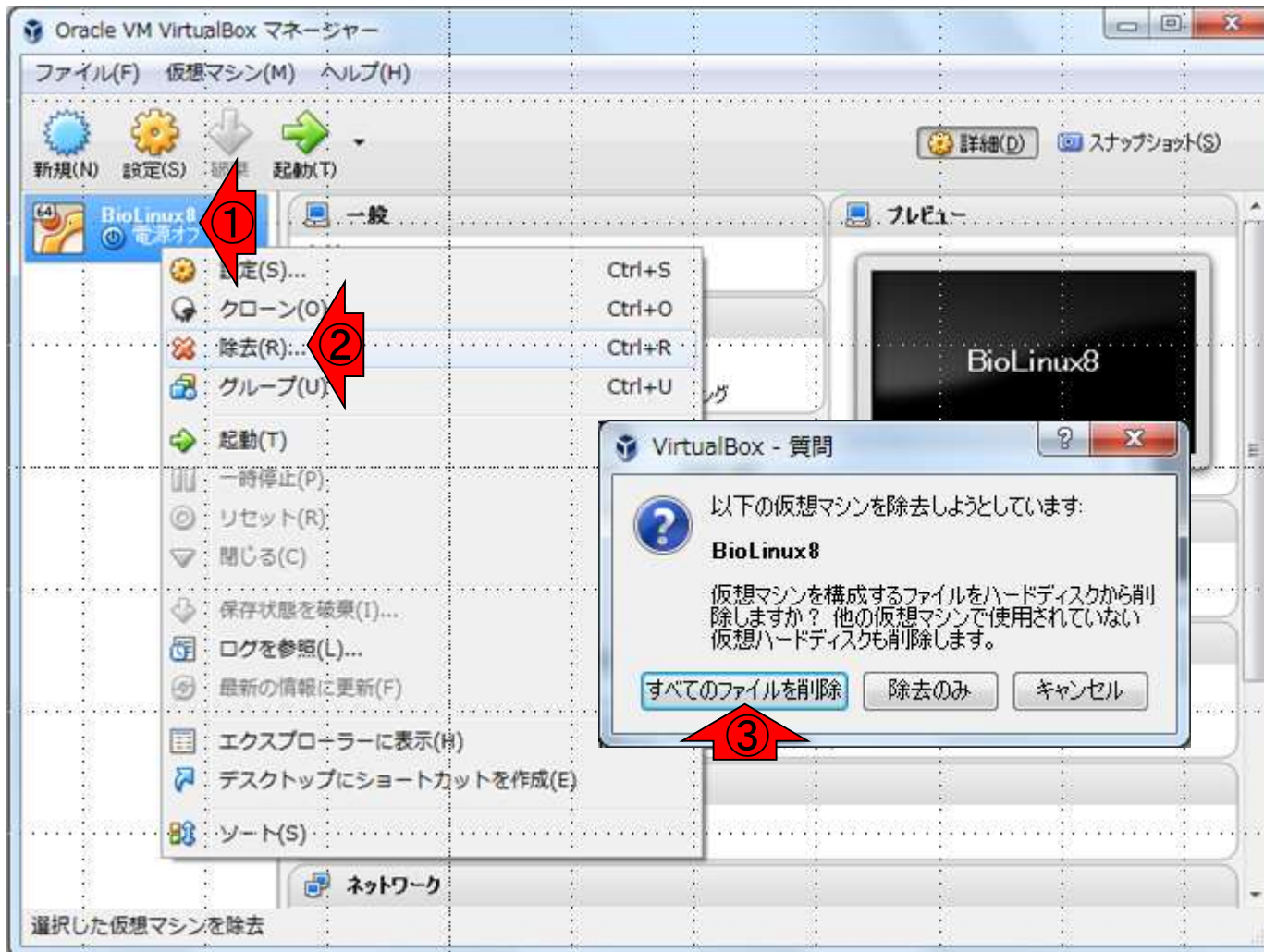
VirtualBoxの起動

①Extension Packを導入済みのVirtualBoxを起動。②まだインポートしていないはずのBioLinux8というものが見える場合が多いですが、これをまずは除去します。

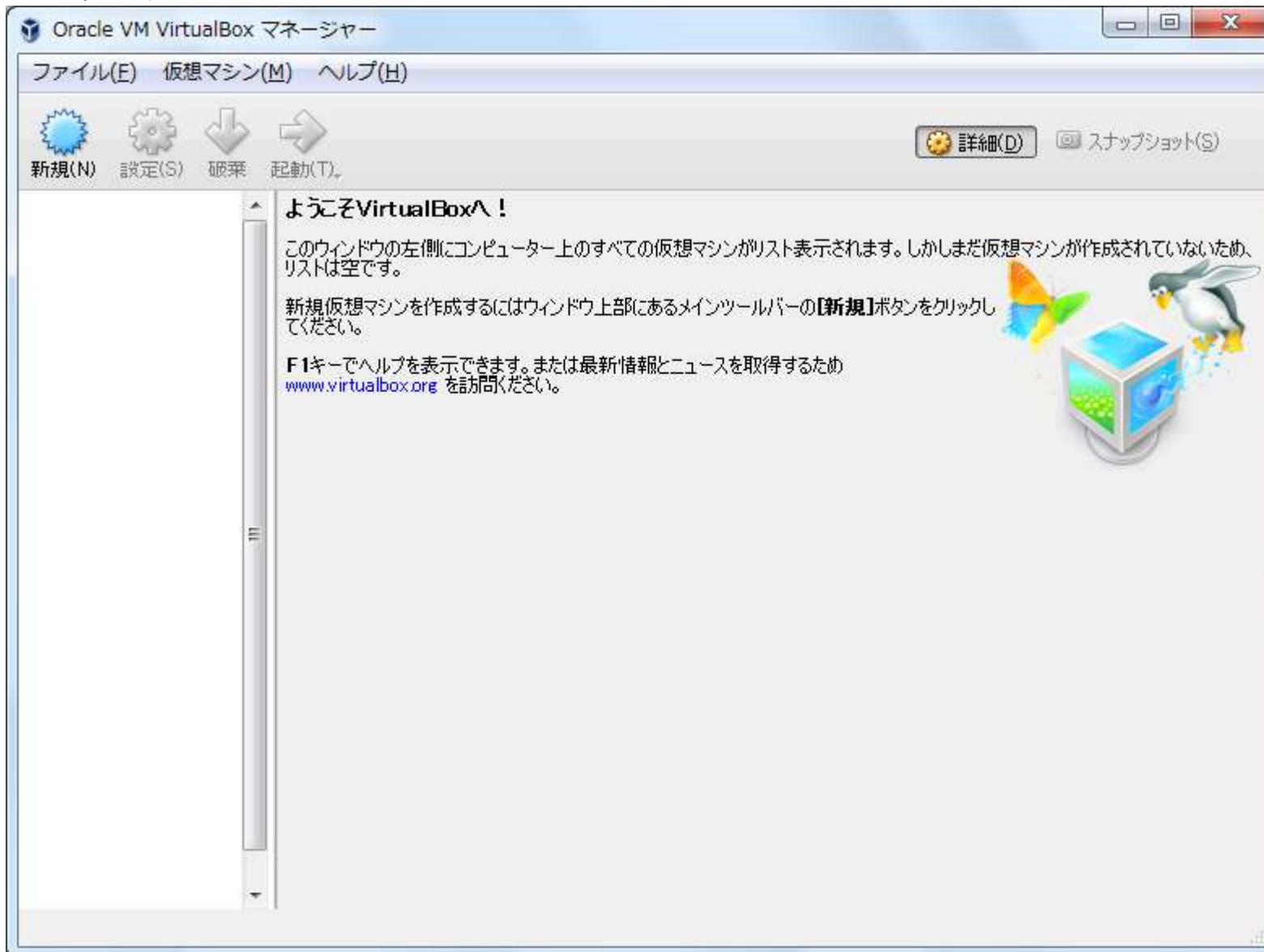


BioLinux8の除去

- ①右クリックで、
- ②除去、
- ③すべてのファイルを除去

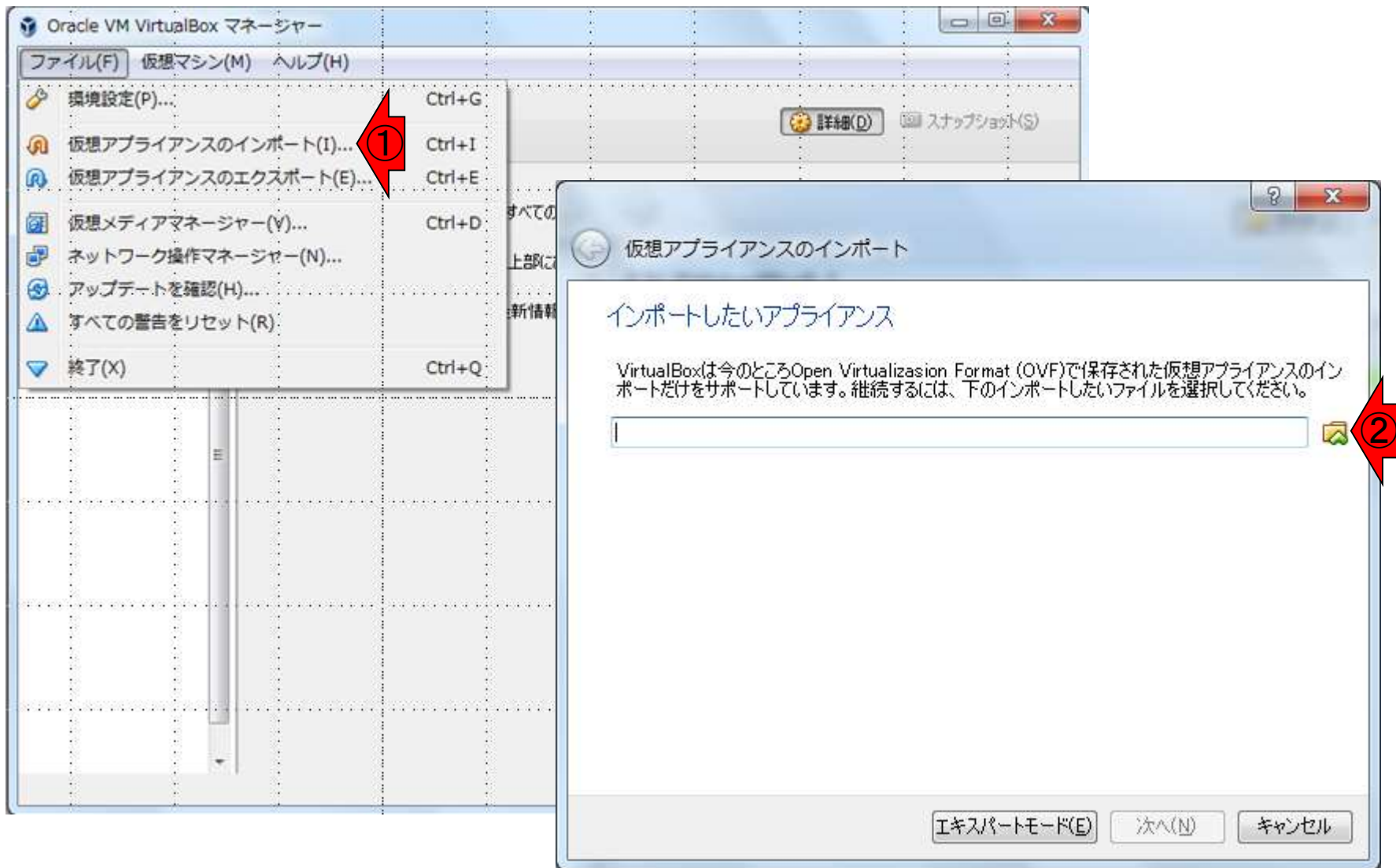


真っ新たな状態にする



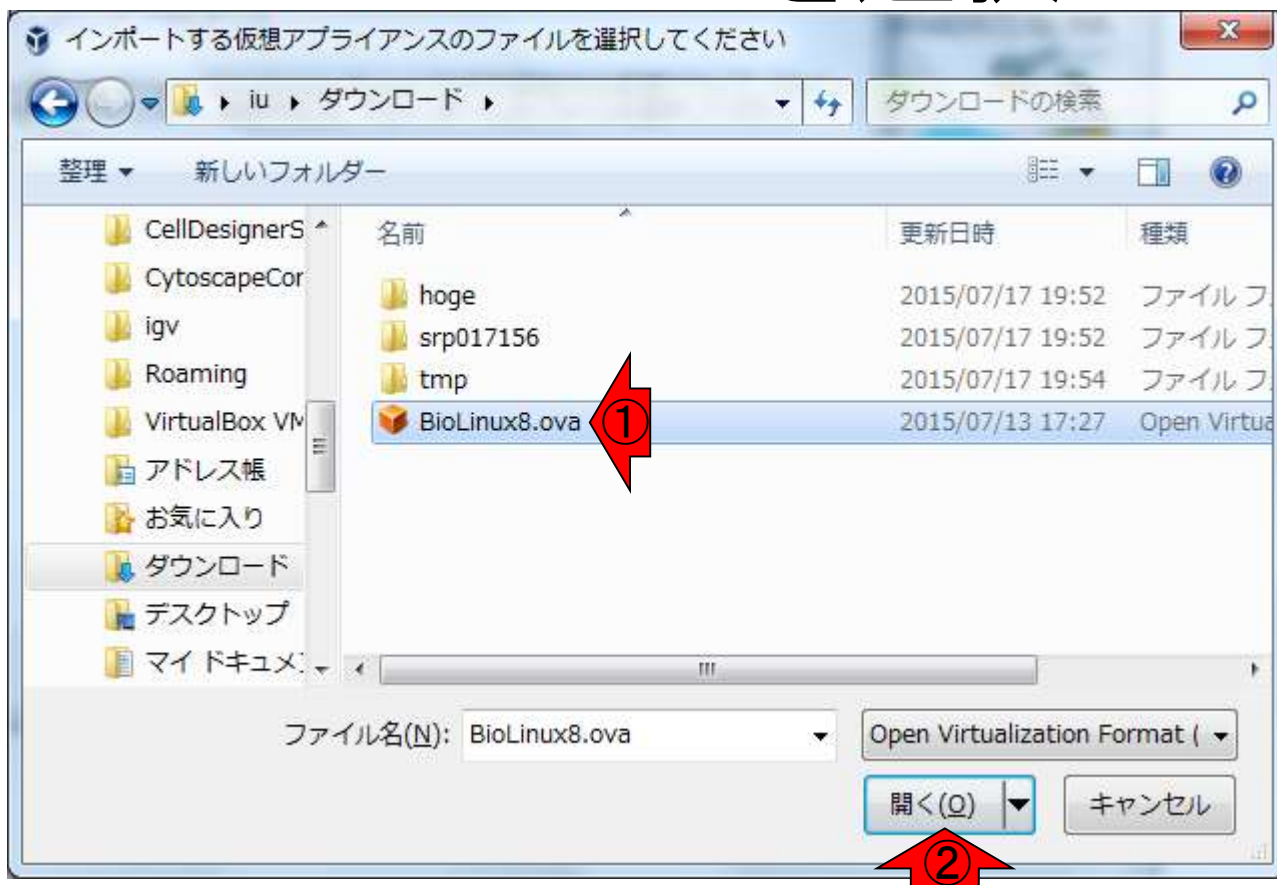
ovaをインポート

①仮想アプライアンスのインポート、②のところを押す



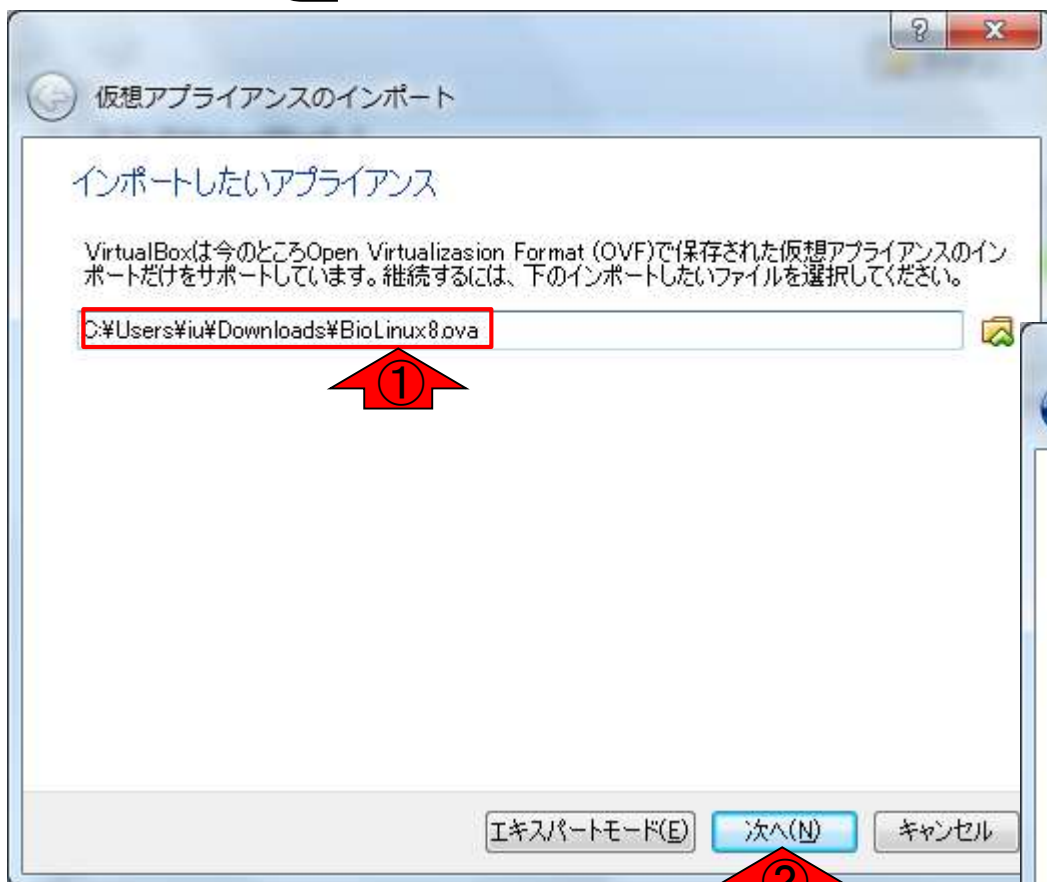
BioLinux8.ovaを選択

①自分がコピーしたBioLinux8.ovaを選択して、②開く。NGSハンズオン講習会受講生は、自分がインポートしたい適切なovaファイルを予め自分のPC上に置いておくのですが、それを消すと動作しなくなりますので注意しましょう。

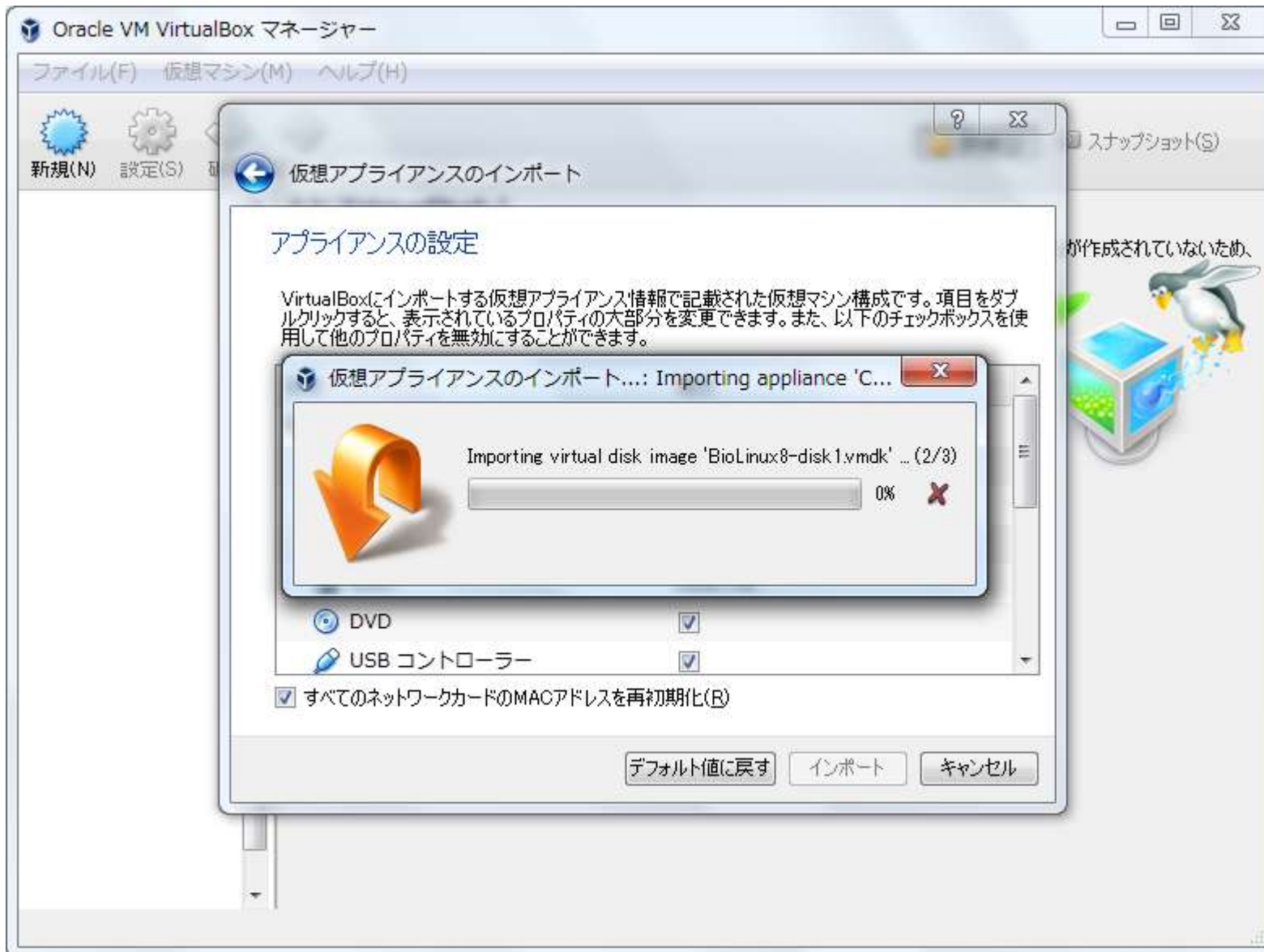


ovaをインポート

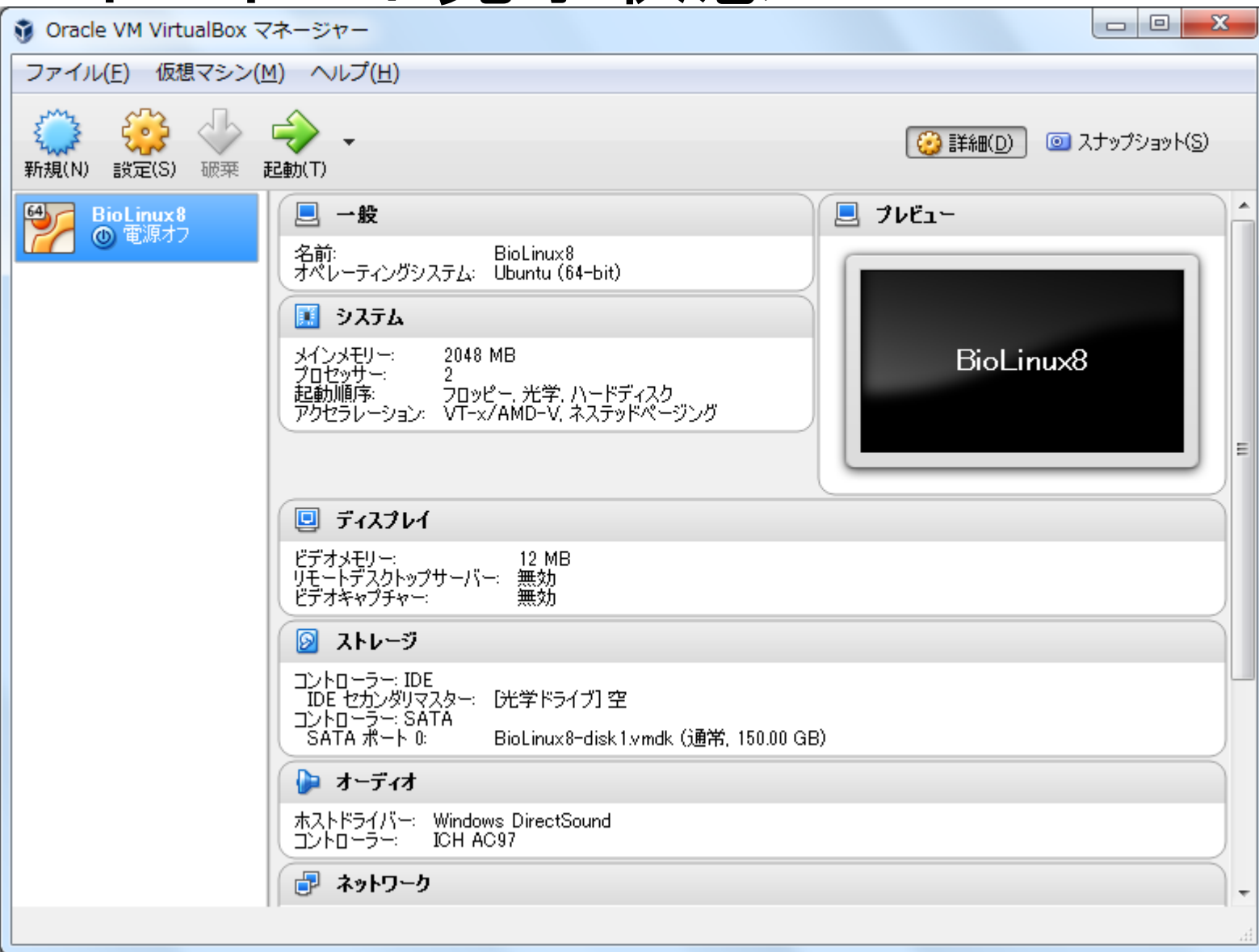
- ①赤枠部分の見栄えはヒトによって異なる。
- ②次へ。
- ③「すべてのネットワークカードのMACアドレスを再初期化」にチェックを入れて、
- ④インポート。



インポート中



インポート完了状態



shareフォルダ作成

①ホストOSのデスクトップ上にshareという名前のフォルダを作成

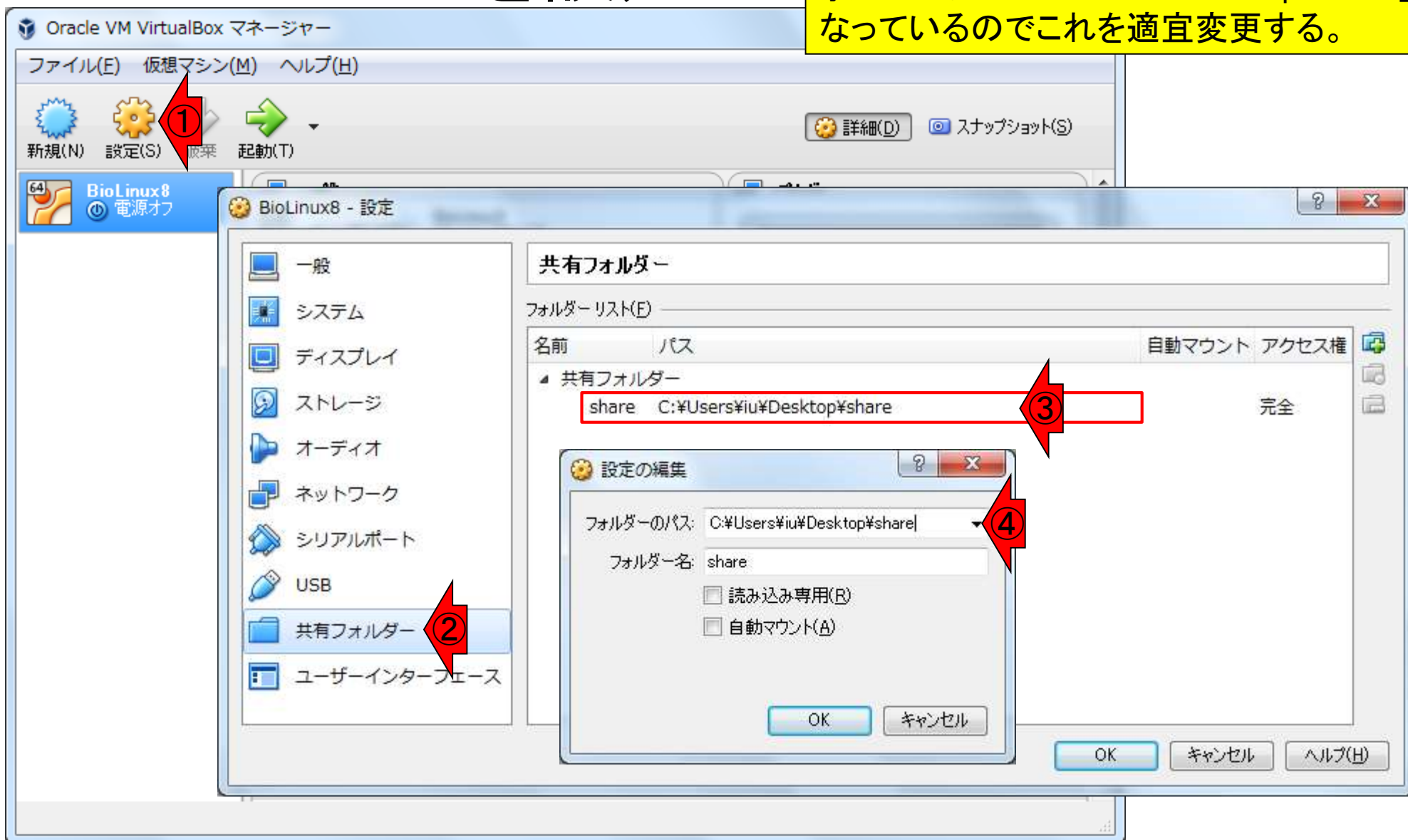
The screenshot shows the Oracle VM VirtualBox Manager interface. The main window displays the configuration for a virtual machine named 'BioLinux8'. The configuration is divided into several sections:

- 一般 (General):** Name: BioLinux8, Operating System: Ubuntu (64-bit).
- システム (System):** Main Memory: 2048 MB, Processor: 2, Boot Order: Floppy, Optical, Hard Disk, Acceleration: VT-x/AMD-V, Nested Paging.
- ディスプレイ (Display):** Video Memory: 12 MB, Remote Desktop Server: Ineffective, Video Capture: Ineffective.
- ストレージ (Storage):** Controller: IDE, IDE Secondary Master: [Optical Drive] Empty, Controller: SATA, SATA Port 0: BioLinux8-disk1.vmdk (Normal, 150.00 GB).
- オーディオ (Audio):** Host Driver: Windows DirectSound, Controller: ICH AC97.
- ネットワーク (Network):**

On the host desktop (Windows 7), a folder named 'share' is visible, indicated by a red arrow with a circled '1'. The taskbar at the bottom shows the date 'Jul 22 2015' and the time '20:27 2015/07/17'.

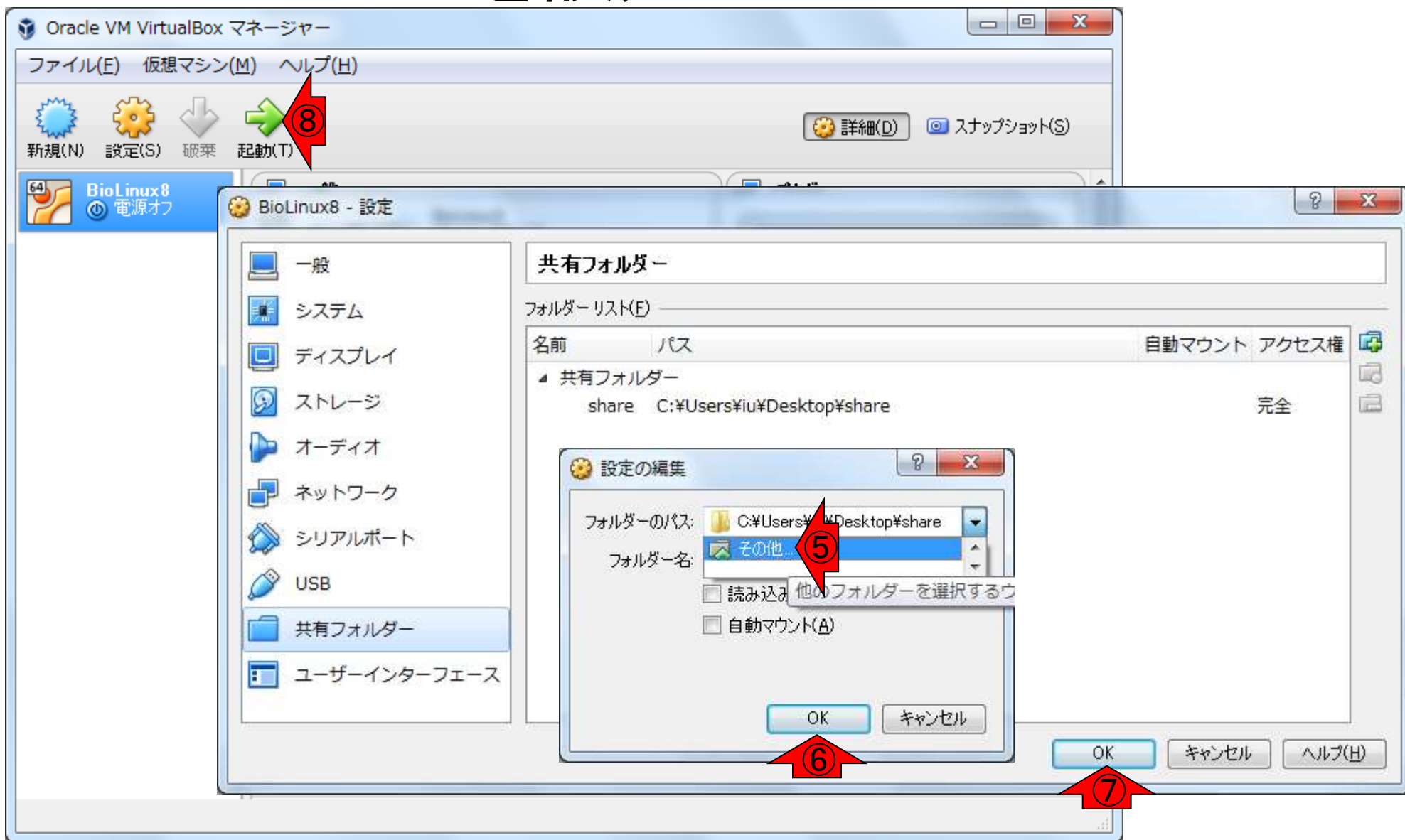
shareのパスを設定

①設定、②共有フォルダー、③赤枠でダブルクリック。④フォルダーのパスのところがデフォルトでは「C:¥Users¥iu¥Desktop¥share」となっているのでこれを適宜変更する。



shareのパスを設定

⑤「その他」を選んで、適宜変更し、⑥OK、⑦OK。⑧起動。



Macユーザのみ1

Macユーザの方のみ、この作業を行ってください。(野間口達洋氏 提供情報)



BioLinuxの設定画面でポートをクリック

Macユーザの方のみ、この作業を行ってください。(野間口達洋氏 提供情報)

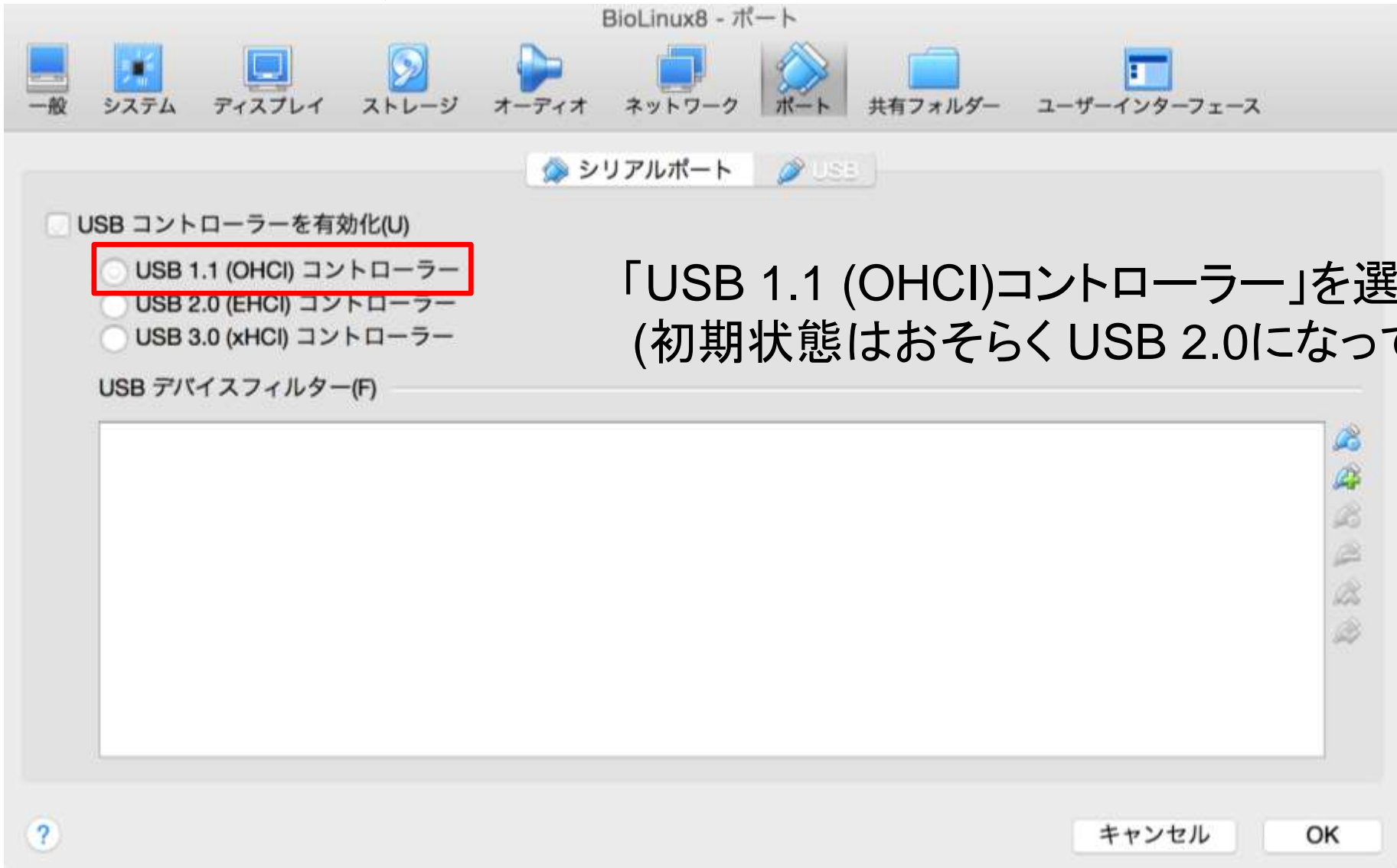
Macユーザのみ2



USBのタブをクリック

Macユーザの方のみ、この作業を行ってください。(野間口達洋氏 提供情報)

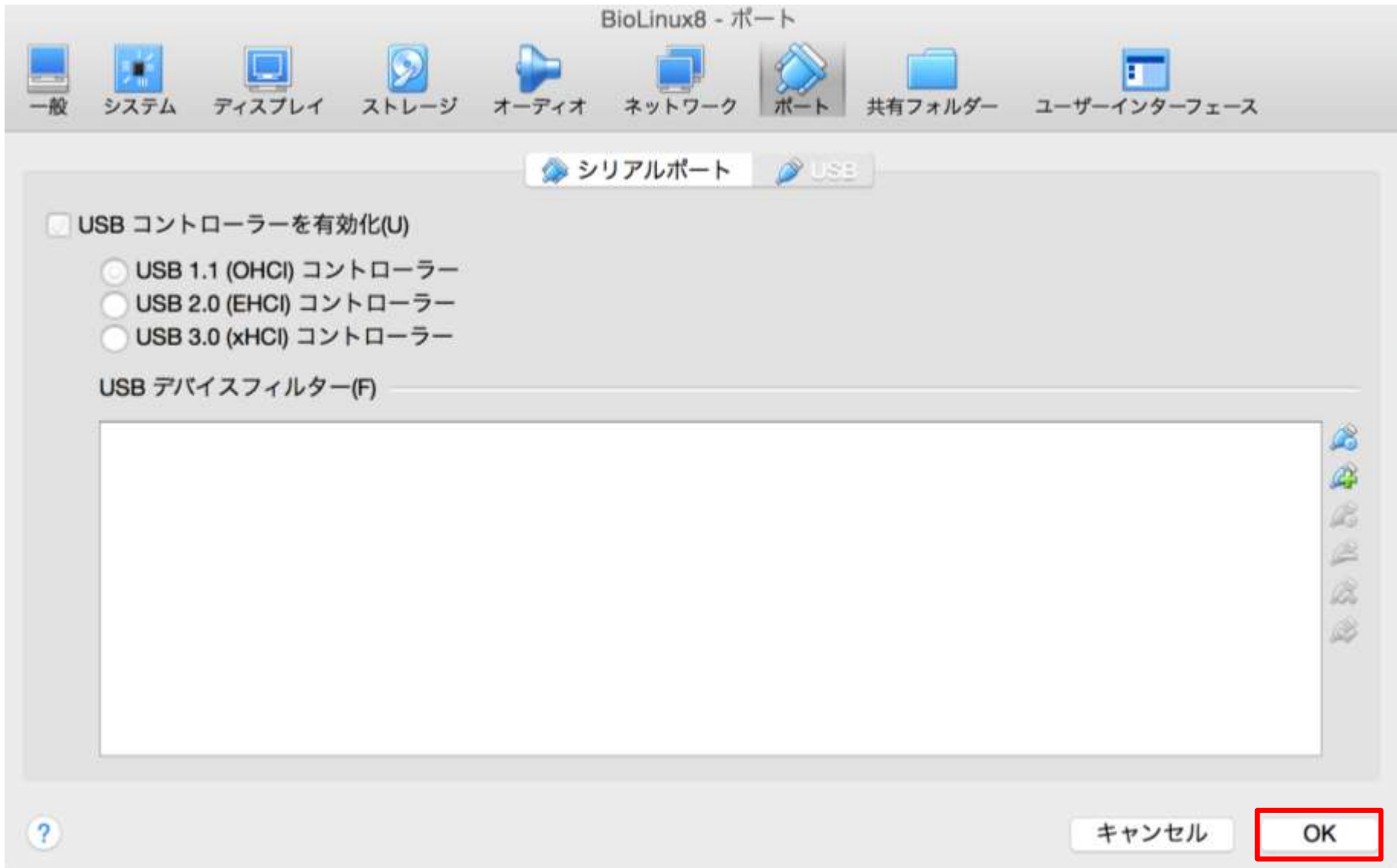
Macユーザのみ3



「USB 1.1 (OHCI)コントローラー」を選択する
(初期状態はおそらく USB 2.0になっている)

Macユーザの方のみ、この作業を行ってください。(野間口達洋氏 提供情報)

Macユーザのみ4



OKで完了

BioLinux8起動

①起動後の状態。②見づらいため「今後表示しない」に2つともしておく。③パスワードは「pass1409」

The image shows the Oracle VM VirtualBox Manager interface on the left and the BioLinux8 virtual machine console on the right. The VM is running and displaying the Ubuntu 14.04 LTS login screen. A password prompt is visible, and a red arrow points to the password field.

① The '表示(H)' (View) button in the VirtualBox Manager toolbar is highlighted with a red arrow.

② The '今後表示しない' (Don't show again) checkboxes for the keyboard and mouse capture messages in the VM console are highlighted with a red arrow.

③ The password input field in the 'Guest Session' dialog is highlighted with a red arrow.

The VM console shows the following text:

```
キーボードの自動キャプチャー機能が有効です。仮想マシンのウィンドウがアクティブのとき、仮想マシンはキーボードを自動的にキャプチャーします。キーボードの自動キャプチャー機能をオフにするには、仮想マシンのウィンドウを非アクティブにしてください。今後表示しない [X] [ ]
```

```
ゲストOSでマウス統合機能がサポートされています。ゲストOSでマウスポインターをキャプチャーすることなく使用できます。仮想マシンの画面上にマウスポインターをキャプチャーする場合は、仮想マシンのウィンドウを非アクティブにしてください。今後表示しない [X] [ ]
```

```
iu
```

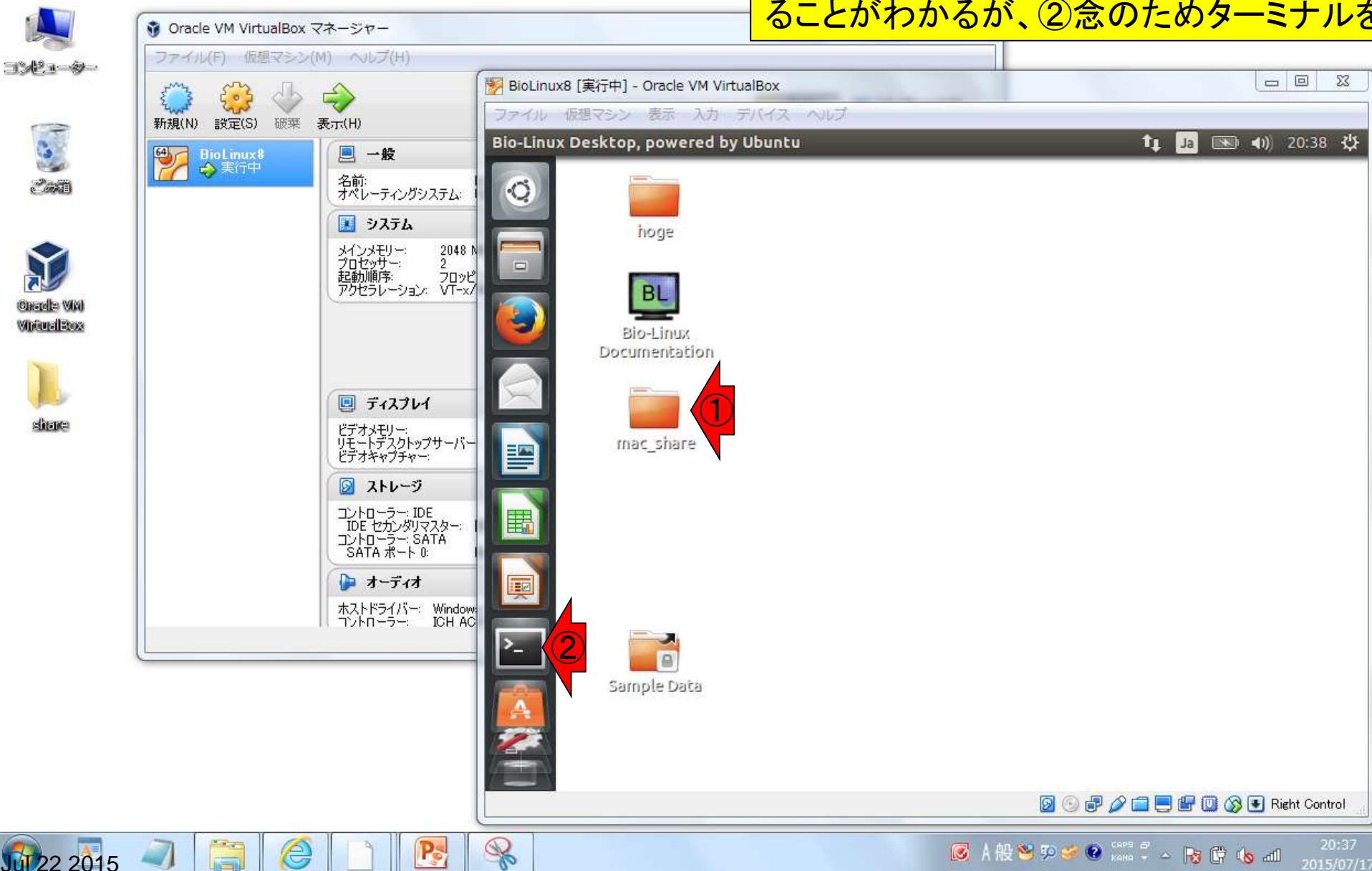
```
Password
```

```
Guest Session
```

```
ubuntu® 14.04 LTS
```

起動直後の状態

こんな感じです。①mac_shareフォルダがホストOSのデスクトップ上に見えている段階でうまく環境構築済みのovaファイルをインポートできていることがわかるが、②念のためターミナルを起動



ls Desktop

①「ls Desktop」と打つ。②mac_shareのところだけ緑色に反転されていたらOK。そうでなければ共有フォルダ設定に失敗していると判断しどうにかしてトラブルシューティング!

```
Terminal
iu@bielinux[~]
zsh: corrupt history file /home/iu/.zsh_history
iu@bielinux[iu] ls Desktop [ 8:39午後 ]
Bio-Linux Documentation hoge mac_share Sample Data
iu@bielinux[iu] [ 8:40午後 ]
```

